

ほんごう

国立富山工業高等専門学校同窓会会報

No.3 1999年(平成11年)10月発行
〒939-8630 富山市本郷町13番地
国立富山工業高等専門学校同窓会
発行責任者 石山 彰 雄
印刷 / 株式会社 宮越印刷



特集 30周年に寄せて

校長、教育後援会会長より

歴代会長より

お世話になった方々より

OB・OGからの通信

母校とその周辺の変化・あゆみ

高専体育大会の結果報告

必ずこられまあー

平成11年度総会開催

11月6日(土) 午後 5:00～ 7:00

場所 / 名鉄トヤマホテル

会費 / ￥5,000

詳しくは富山高専(076-493-5483) 佐藤教官

FAX (076-492-3859)

E-mail: sato@toyama-nct.ac.jp

恩師の先生方にも御案内しています。

退官教官では、宮本一郎、石崎喜一、平沢良介、森治朔、立浪勝、石川克、各先生方が出席されます。

尚、岡崎先生が撮影された、昔なつかしい8mmフィルムの上演を予定しています。お楽しみに！

なお出席の方は同封のはがきにて、
10月20日までにお知らせ下さい。

多数の参加をお待ちしています。



30周年記念会報の発行

会長 石山 彰 雄

同窓会も創立30年を迎えました。記念会報と言っても、例年より多少多めに予算づけただけなので、派手なものにはなっていませんが、退官教官、OB、OGの方々から多数の原稿を戴き、編集委員が奮闘努力してくれたので是非お読み頂きたい。そして、同窓会・富山高専・高専制度そのものに少しでも興味をもって頂きたい。同窓会としてこれからの情報を会報・ホーム

ページ・総会等により発信することが責務と考えます。

今、制度は独立行政法人化、そして技術専科大学への名称変更等大きな変革のうねりのなかで21世紀を迎えようとしています。

技術立国日本のなかにおける高専は、いかにあるべきか卒業生の評価が問われます。そして、卒業生自らが提言することが重要と考えます。

その場としての同窓会を大いに利用して欲しいものと思います。

今年も11月6日(土)に同窓会総会を開催します。ぜひ、おいで下さい。

待っています。



同窓会30周年に向けて

校長 宮下 和 雄

富山工業高等専門学校同窓会発足30周年を迎える事が出来ましたことに心からお慶び申し上げます。

今日まで卒業生、修了生の総数4,449人が社会で重鎮として、中堅技術者、そして新進気鋭の技術者として、確固たる評価を得て活躍されていることは誠に同慶の至りです。

20世紀の科学技術の成果は目覚ましく、自然をも制御する程のパワーを有する程になり、一方、現在の豊かな生活を支える巨大システムでは、例えば、半導体、冷却管やコンクリート等、それ自体小さな欠陥であっても、生命の危険を伴う重大事故につながります。したがって、21世紀の技術者に対し、確かな技術力と倫理が要求され、技術者認定制度が欧米先進国をはじめ、わが国においても実施あるいは、検討されている状況です。また、国際的な科学技術大競争時代に対して、創造性と個性を活かすことが教育指針の中で重視されています。このように技術者倫理や個性を磨き、確りと身に付けるためには、人と人との直接の交流が非常に大切なことです。

自らの同窓会を有効に活用し、会員間の交流を活発にして戴くことと、後輩のため是非母校訪問の機会をつくって戴き、ご指導ご鞭撻をお願い致します。

皆様の一層のご発展とご活躍を祈念致しまして祝辞とします

同窓会30周年を お祝いして

教育後援会

会長 大久保 雄 一

富山工業高等専門学校同窓会が30周年を迎えられたこと心よりお祝い申し上げます。

30年に及ぶ同窓生の皆さんの目覚ましいご活躍のお陰によって、昨今の就職難の時期においても在校生の就職希望者の就職率はほぼ100%と、企業の富山工業高等専門学校卒業生への期待は非常に高いものがあります。

また、同窓生の大学編入後の活躍も目覚ましく、その結果年々大学の編入枠も大きくなり近年卒業生の半数以上が進学しています。

教育後援会は教育の充実振興に寄与し、併せて会員と学校の協調をはかることを目的とし、学生の学習及び課外活動の援助及び助成等をおこなってきました。

その一貫として平成9年度より同窓会の協賛もいただき、特別会計で2年おきに各界の著名な方を招き講演会を開催しております。

第1回は平成9年11月21日宇宙飛行士秋山豊寛氏を迎え講演会を行い、第2回の本年度はジェームス三木氏を迎え「君の人生は輝いているか」と題し来る11月5日オーバードホールで開催を予定しています。

同窓会と教育後援会は車の両輪の如き存在であり、富山工業高等専門学校の発展充実のためにも手に携えて歩んでいかなければと考えています。

20世紀中に30年の輝かしい年輪を刻まれた同窓会が、新たなる21世紀も引き続き輝き続けることを念願しお祝いの言葉といたします。

平成10年度 同窓会 総会 より



ブラスバンド部の演奏



合唱部



なごやかに談笑

歴代会長よりのエール

50代になってわかったこと

初代会長

C1 川原 勝正

最近、時折体力や気力の衰えを感じるようになり、年をとったかなと実感します。

昔流行した鈴木健二ではないが、振り返ってみて各年代毎に感じたことを挙げてみます。

10代—真綿が水を吸う如く知識を吸収できる人生最高の時

20代—社会では若いと言われるが、すでに体力は低下し始めている。謙虚に先輩に教を乞えば全てうまくいく。

30代—そろそろ中堅どころ、家庭の責任もあるが、この後の会社での将来から考えて最も踏ん張りどころ。

40代—若い時の経験を元に、最も仕事ができる時。未だ定年を考えるには及ばず、とにかく頑張れ。

50代—気力だけあっても体力がついていかない。過去の経験と口先でその場を乗り切るだけ。もう先が見える。

以上のように、若いときから頑張った人が人生の勝者となり得るのです。

後輩諸君、若い事は自分の財産です。財産はフルに活用して下さい。



同窓会 30 周年によせて

四代会長

E1 井本 勝久

富山高専・同窓会 30 周年、おめでとうございます。思い起こせば、昭和 39 年 4 月 18 日に挙行された開校式、入学式からはや 35 年。

在学 5 年間にお世話になった先生方、職員の方、そして同期・後輩の皆さんに改めて御礼を申し上げます。その後の 30 年間の人生にどれだけのパワーを与えていただいたことか。今も、電友会、同期会（44 年電気卒）として継続され、いい刺激を受けています。

卒業後に入社した企業に勤めて 30 年。東京を皮切りに富山、福井、名古屋、東京、北九州と巡り、現在二度目の名古屋が 8 年を数えます。企業の盛衰をまのあたりにし、今また底を打ったと言われる日本経済に元気に乗らんかなとしています。

同窓会運営には、数々の問題もあろうかと思いますが、次の 50 年、70 年につなぐ意味でも、今を頑張っていたいただきたいと思います。



同窓会 30 周年によせて

五代会長

M2 花島 秀義

富山高専同窓会の 30 周年を会員の皆さんとともにお祝い致します。

私は本会の設立準備会から参加し、設立当初から長期間役員として運営に参画させていただき、会長もつとめさせていただいたことから、30 周年と伺って、年月の経過の早さを感じるとともに、この間のいろいろな出来事を思い浮かべております。

時折いただく案内を見て、会の運営も社会の進歩に遅れることなく近代化されていることがうかがわれ、心強く感じています。

会長はじめ、役員の方々と事務局のご尽力を得ながら本会がますます発展しますよう祈っております。



平成 10 年度 卒業 祝賀 会

石山会長より、新卒理事へ活動助成金進呈

お世話になった方々より



開校初期の思い出と近況

名誉教授 森 治 朔

富山高専同窓会 30 周年おめでとうございます。
私は昭和 39 年 4 月富山高専の開校と同時に 機械工学科に助手として赴任して来ました。それから 35 年間学生の教育、研究に携わり今年 3 月定年退官しました。同窓会が 30 周年との事、何かの因縁と考えています。39 年当時は校舎もほんの一部しかなく、入学式は現在の管理棟の 2 階（当時図書室）でした。

若かりし頃の思い出ではクラブ活動（軟式庭球部コーチ、監督）学生との工場見学旅行などありますが特に思い出されるのは昭和 45 年第 2 回高専祭の仮装行列です。

“よみがえる開拓者の女たち” というプラカードを持ち寺田先生、佐藤先生（英語）、中川先生（ドイツ語）、亀田先生他と総曲輪を女装で歩いた事です。近況では、退官後非常勤として「燃烧工学」（5M）、「流体機械（5M）」、「水力学（5E）」を担当し、週に 1~2 回高専に行っています。そのほか（財）省エネルギーセンターの専門委員として中堅工場やビル空調の省エネルギー診断を行っています。また 4 月より退官記念・同級会（第 1 回生、第 5 回生）に招待して頂き卒業生の元気な顔を拝見したりして結構忙しい毎日を過ごしています。



同窓会での再会を期待して

電気工学科 武 田 文 雄

富山高専に来て 30 年、泣きたくなるような長い時間が過ぎてしまいました。思えば語り尽くせないほどの色々なことがありました。卒業生とは全員顔を合わせていることになりましたが、最近卒業生の名前を思い出せないことがあり、時々失礼しています。お逢いした時には卒業生から名乗っていただければアルツハイマーを自覚せずに済みますので有り難いと思っています。山形に生まれ、金沢、京都で学びましたが家内と巡り会い、子供が生まれ育った富山の地が一番素晴らしく思えるようになりました。しかし、最近故郷

の友人と無性に逢いたくなり、クラス会などには喜んで参加しています。

富山高専の同窓会にも出席して卒業生と懇談するのを楽しみにしています。頭が禿げあがった、太って恥ずかしいなど出席をためらう事情があるとは思いますが、気楽に参加されたいと思います。考えてみると心配事がない時期なんてないと思いますし、今が華やかなかもしれません。皆さんと酒を飲み交わしながら楽しい一時を過ごしたいと思います。

私は富山演劇鑑賞会や富山陸上競技協会の運営に携わり、ボランティア活動をしながら人との交わりを楽しんでいます。研究室にもお立ち寄り下さい。



第 1 回入学試験の思い出

一般科目 熊 谷 卓 夫

卒業生の皆様は、各方面で、重要な仕事に携わり、活躍されている様子を聞き、大変嬉しく思っています。

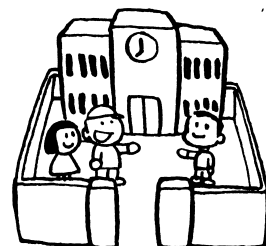
私が、第一回入試の事を語るのは、不思議に思われるかと思いますが、当時、私は、富山中部高校に勤めていて、試験監督を委嘱され、また、異常な状態で入試が行われた事を、伝えたいと思ったからです。

試験場は、富山大学・富山中部高校・芝園中学だったと思います。

当時、学生運動が盛んな時代で、入試も、投石や、デモ行進などで、妨害されないかと心配され、機動隊を校内に入れ、入口の扉や、窓を全部閉め、物々しい警戒のもとに、受験生一人一人、受験票で確認して、校内に入れられた事を、記憶されている方も、おいでの事と思います。

特に、富山中部高校会場で問題になった事は、校門から校舎に通じる道が、市道（当時は、グラウンドと校舎敷地の間に市道があり、それを学校所有地の如く使用し、入口の所に、門柱が立っていた。現在は、安野屋小学校と富山中部高校の間に、移されている。）であり、一般人の通行止めが出来ず、デモ隊が校舎の直ぐ近くまで、近づける事であった。

今後は、同窓会の発展と共に、皆様のますますの御活躍を期待しています。





雑 感

名誉教授 関場 鐵也

「光陰矢の如し」とは良く言ったもので、創立 35 周年、同窓会も 30 周年を迎えたそうで、おめでとうございませう。おもえば、15 才の少年が 50 才ノその間、現代ほど人の生き方・大げさに言えば「人生の価値観」の変化した時代は今までに無かった様に思う。私たちの年代は「勤勉が美德」と教えられてきたのが、今では極端に言えば「勤勉が背徳」の感すらある。大学を初め、学生の学力低下が言われている。本校でも分数計算のできない学生が居るが、考えてみれば、電卓・パソコンのキーの押し方だけ知っていれば良い様な気もする。心臓の取り替っこができる医者がいれば、肺結核に罹って居ても解らない医者がいる。クローン人間が出現して、だめ人間は人為淘汰される時代が来るかもしれない……

もう 50 年経ったら一体どんな世の中になって居るのだろうか。



学生の今昔

環境材料工学科 浅田 實

私は昭和 46 年 K 科の第 1 回生が 3 年次になったときに赴任しました。最初の学生は大学生と同等若しくはそれ以上という校長の話に触発されてか意識の上でそれが十分に感じられ、むしろ大学生の多くが遊びに興じつつある時代となっていたのに、高専生は非常に勉強した感じでした。

最近では学生の質の低下が感じられておりますが、卒研生でクラス最下位の学生を担当したことがあります。本当に質が悪いのか知りたくて、夏休み 1 月を試みにある科目について指導した結果、卒業時に上位となり、本人に話を聞いたところ、勉強のやり方、面白さがわかったとのことで、必ずしも質の低下が全てかどうか疑問となりました。

現在は、この学生も含めて、全ての卒業生が実社会で頑張っており将来が楽しみです。

皆さんの益々のご健闘を祈ります。



同窓会 30 周年を祝して

元職員
(看護婦) 小林 鈴子

卒業生の皆様、この度同窓会が 30 周年を迎えられた由、誠にお目出度う御座居ます。その記念すべき会報の発行に当たり、私ごときに原稿の依頼を受け戸惑いました。が、折角の機会なので一言位はと思ひペンを把った次第です。

経済界もこのところ低迷状態ですが皆様の業界は如何かと案じられます。

ご存知の方もおられますが私は 3 年前に定年になり現在は家で雑事に追われる日々を過ごしております。

時には思わぬ場所で卒業生の方とお会いすると、なつかしくとても嬉しいものです。富山高専も年々施設も増え益々充実しております。同窓生の方も大勢教職員として頑張っておられます。遠方より帰省（近辺におられる方も）された折には恩師や同窓生を訪ねてください。時間があつたら小林宅にもお寄りくださるとうれしいのですが。

最後に富山高専と同窓会の益々の御発展と皆々様のご多幸を祈念して私の拙いペンを置きます。



選手宣誓は
5 K
本田秀之君



第 34 回 北陸地区高専体育大会
女子柔道表彰式 山本綾香さん優勝

O B ・ O G からの通信



いつでも青春

非常勤講師

M1 浜下朝夫

「富山高専同窓会」が30周年ということは、第1期生の私は卒業してもう30年ということになります。手を伸ばせば、まだそこに一緒に学んだ友達や恩師がいるような気がするの…早いものです。

パチンコにマージャンの落ちこぼれ学生も会社に入って30年、高専で学んだことにさらに独自の発想で、自他共に認める生粋のエンジニアになってしまいました。また、5年前より非常勤講師として母校にきています。目まぐるしく進歩する科学の世界はわくわくすることがいっぱい、そんな「わくわく話」を母校で講義できることは大変幸せです。

さて、私は、仕事やプライベートで外国に行く機会が多くありました。少しの滞在でそれぞれの国を理解することは難しいことですが、自分の住んでいる「日本」がわかるということがあります。それと同じように、身近な回りだけを見ていると気づけなかったり、見失ったりすることがありますので、そんなときは自分を客観的に見て、反省したり勇気を出したりすることにしています。

今はインターネットを始めました。いろいろ教えていた息子に今度は教えてもらって楽しんでます。下手なゴルフに下手なカラオケ、育毛トニックと普通のおじさんですが、「いつでも青春」でこれからも輝いて生きていこうと思っています。

世代の子供、つまり団塊ジュニアと呼ばれています。

世代別に分ける理由は、その世代により社会に対する考え方と価値観が大きく異なるからです。現在私は富山市の(株)不二越で技術開発の業務を担当しており、部下にも新人類世代の高専出身者がいます。

その傍ら今年の3月に定年退職されました森先生のお薦めで、3年前から非常勤講師として「工作機械の設計製図」を5年機械工学科の学生に教えています。

製図はCADを使用せず、あえてドラフターで行っています。最初からCADを使用すると、考えて図面を画く習慣が身につかず、ゲーム感覚でのデータの移動技術ばかりが身につくからです。学生と対話をする中で世代間の考え方の違いを強く感じています。

私達の時代と大きく異なる点は、

- 1 今の高専は半分進学校です。(センター試験を受けずに国立大学へ進める手段という学生もいます。)
- 2 カリキュラムが高度な分野に移行しているため、学生の基本的項目の理解が不足しています。
- 3 一般的に自己研鑽が足りません。学校以外で勉強する姿勢が見受けられない。

決して私達の時代が良かったという意味ではありません。現在は変化の激しい時代ゆえ、その適応能力は今の学生が優れています。

「温故知新」の気持ちで、少しでも私達先輩の考え方を今の学生に理解してもらい、これからの21世紀を担っていける人材に育ててもらう様、微力ながら努力しています。

花の9回生から



当時と現在に思う

非常勤講師

M1 小林 諭

卒業後の30年が経ちました。当時は高度成長時代の真っ直中であり、目標が決まっていた問題が発生しても解決すれば良い時代でした。ところが現在は大きく違います。

いわゆる大調整時代(大競争時代)の真っ直中であり、目標を選択しさらに問題点を提案する時代です。社会的に分類しますと、私達は団塊の世代です。その後、新人類世代が来て、現在在学中の皆さんは団塊

C9 牧野啓行

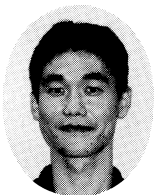
23回目のクラス会が、今年も年暮れの12月30日に行われます。開校以来の最劣等生というコンプレックスを抱きながらも、結束だけは最高を自負する工業化学科9回卒業生。「ひとけた」最後で、10周年という節目を越えたことが幸いでイベントがクラスの結束を培ったのかもしれない。更に、私たちが卒業した昭和52年は、第1次オイルショック後の不景気で、就職難の中、どうにか卒業にこぎつけたことも、その一因と考えられる。その時の担任や教官方から受けた恩恵には、何をもっても報いきれないと思っています。

クラス会を卒業以来、欠かさず実施してきたのは、

一年間無事に勤めたかを確認するためのようでもあった。卒業生や編入生ばかりでなく、中途退学者も参加して、年々回を重ね、とうとう23回を数え、皆出席者はなんと担任一人でした。年によっては10人を割る年もあったように聞いています。湯の神子温泉で、退官される教官を招いたこともあり、学生時代はまともにも顔も見れなかったZ教官と、酒を酌み交わすこともできた。思い出は数しれない。そして今回は、担任の還暦祝いをするにしている。

さて、初老もすんだ我々世代の者でも、同窓会のこととなると意見はまちまちです。学科が違えば顔も解らない。学年も違えばなおさらのこと。「同窓会は卒業生が在校生に何かをしてあげる会」と言う者もいる。ようするに千差万別、十人十色ということ。

今や情報化時代ですから、許される範囲のなかで、より多くのニーズに答える同窓会運営を考えて欲しいものです。誰かが犠牲になるようではいけない。最小限の経費で最大限の成果をめざして。今後とも確実に発展(会員増)する同窓会。あれが悪くて、これが好いではなく、あれも好い、これも好いで、みんなでニーズを出し合ひましょう。



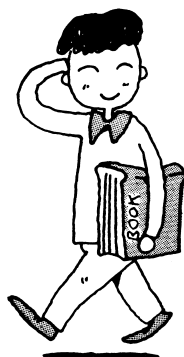
高専初の留学生より

M26 鄭 柱 勇

私は、高校3年のとき日本の国費留学生として韓国から日本に参り、6ヶ月間東京の日本語学校で日本語を学びました。その後1991年4月から富山工業高等専門学校の機械工学科に3年次編入し、1994年3月までの3年間留学生生活をしました。その後長岡技術科学大学に3年次編入し、1996年3月義務徴兵制のため韓国に戻りました。徴兵の義務を終えて今年の4月富山大学大学院に入学しました。

韓国では、健康な男性なら必ず2年2ヶ月の軍生活をする義務を持っています。

南北が休戦状態にある韓国での軍生活は、社会の生活とは180度違います。まるで韓国にいながら、もうひとつの国に留学しているような気持ちでした。規則正しい生活と緊張感溢れる厳しい訓練、初めて経験した絶対逆らえない上官の命令…。すべてがまったく新しい世界だったので瞬間瞬



間がつかったです。このような軍生活では本当に時間の流れが遅いと感じてしまいます。しかしそうしたゆっくりとゆっくりと流れる2年2ヶ月の時間は、いろんなことを考えさせ、これまでの自分を客観的に見つめる貴重な機会を与えてくれました。それまで考えてみる事もなく、空気のように存在さえも気づかなかった自由がどれほど大切なものであるかがはっきりと分かり、自由な時間を無駄にしてきた自分の生活を反省したりしました。新しいことを始めるのに臆病だった自分がなさげなかつたなと思いました。失敗するかどうかの問題はあまり重要なことではなく、自分自身で自由にやってみることができるという行動に価値があると思えるようになったからです。

また韓国の国民として2年2ヶ月間、国と家族そして自分を安全に守ることができたことで入隊前とは比べられないくらいの自信ができました。これからも一人の男として仲間を守り、家族を守り、国を守ることに自信があります。再度留学してもう5ヶ月が経とうとしています。

たまに困ったこともあるけど軍生活を思い出しながら前の留学生活よりも何十倍楽しくいろんなことを経験しながら過しています。私には今の環境がいかにすばらしいのかが分かるから…。

高専・結婚・おじさんになって振り返る

C4 今村 秀人

C5 恵美子(旧姓 植崎)

夫婦そろって高専を卒業したが、高専時代の思い出と結婚とは全く結びつかない。むしろ卒業後の各々の生き方が、二人を結びつけたと思っている。

高専という枠からどう脱却し、自己実現を果たすのか、学生時代はこのことばかり考えていた。大学へ編入学し、大学院へ進んだ時は、大きな壁を乗り越えた存在として自分を捉えていた。しかし、民間企業に14年間勤める中で、再び息詰まり、脱サラし、現在は自然農法を実践している。はや、8年目である。

自分にとっては高専時代とサラリーマン時代がぴったり重なってくる。息が詰まったのは、高専でもなく企業でもなく、根底に横たわるその工業的発想に起因していた。工業製品は管理された状態のもとでつくられる。自然界に存在しないものをつくるのだから。工業化社会で必要なのは、管理能力と効率性、均一性である。しかし、命あるものは内部に自発的成長力を持ち、管理ではなく、育てられることを求める。自己実現を、多様性を求める。

「我は、人生の敗北者か？あるいは“生きる”を問う求道者か？」

どちらでもかまわない。なぜなら、今人生が楽しい。そして21世紀は、工業的発想からの脱皮を求めている。

脱サラ後、夫婦の絆は強まったと思っている。

北電本郷会

E2 加藤 外 春

電気工学科第2期生の加藤(旧姓明地)です。北陸電力(株)で主に火力発電関係の仕事をしております。北陸電力に勤務する同窓生で「北電本郷会」を結成しお互いの親睦を深めています。また、去る8月14日にはE2の同級会を富山市内で開き、14名が集まり旧交を温めました。

今年の夏は久しぶりに暑くなり俗にいう「夏らしい夏」になりました。気候に左右されるビジネスは沢山あると思いますが、電力業界も大きく影響を受けます。お蔭さまで富山火力もフル稼働(4台ともに定格出力運転)して忙しい思いをしました。

さて、富山火力では火力関係の新入社員を最初に受入れ、「新入社員基礎教育」なるものを実施していますので新入社員をよく観察できます。最近の新入社員の気質を見ておきますと、会社を選んだ動機が弱いことと、ビシビシ鍛えられてもそれに耐えて「最後まで遣り抜こう」という気概と言いますか信念というものが以前よりも少ないように感じられますが、これは私だけの思い過ごしでしょうか。

昔のことを言うと笑われるかもしれませんが私たちが高専に入学したころは、寮では1年上の先輩だけで12人の大部屋でいっしょに生活しました。私はこの寮生活で団体生活や勉強のやり方を教わったような気がいたします。先生方も、新しい高専制度を何とか成功させようと一生懸命であり、それが学生にも伝わり、学生・教官が相携えてよい校風を造ろうという、パイオニア精神が校内に満ちていたように思います。

高専の5年間は15歳から20歳までと、人生の中でもっとも多感な時代であります。同級生は勿論、先輩・後輩・寮生および教官・事務官との出遭いが自分や相手にも影響を与え、ともに育んで成長していきます。在校生諸君には毎日毎日の勉強が本分であることを忘れずに勉学に励むとともに人生の進路を決めるべく自

分を高め、立派な社会人になっていただきたいものと思っております。

最後になりますが、高専の卒業生の心のふるさととは同窓会だと思います。会長さんはじめ事務局の方には何かと大変でしょうが、お世話をいただき今後とも同窓会がますます発展していくことを心からお祈りいたします。

電友会の紹介

第10回電友会

幹事 E11 山崎 正 男

富山高専の卒業生の皆様、色々なところでいつもお世話になっています。

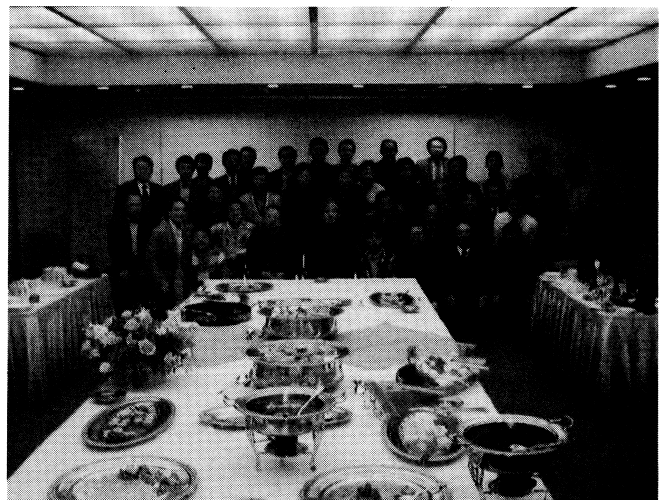
今回は関東地区を中心として電気工学科の卒業生で同窓会を開いている「電友会」について紹介させていただきます。

電友会は今年で10回目を迎えました。電友会の発足は一期生が中心になって発足させたと記憶しています。発足以降は各期が幹事として毎年2月に母校の先生・恩師を迎えて約50名前後の参加者で和やかに会を進めています。今年2月の会では「リストラ」系のスピーチなどが多く時代を反映した会でありました。

電友会で感じることは最近というわけではありませんが13期生当たりから会の参加が極端に少なくなることです。これは卒業生の進路が就職から就職・編入の変わっていったことが主な要因では思います。これもまた、時代の流れでしょうか？

しかし、富山高専同窓会のご尽力により充実しつつある卒業者名簿、メールなどにも今後の会を盛り上げようとしています。

富山高専卒業生の皆様のご健勝をお祈りしています。今後とも宜しくお祈りいたします。



富山高専とその周辺の変化

M14 本江哲行 (機械工学科教官)

富山高専が昭和 39 年に開校され 35 年、富山高専同窓会が発足して 30 年経過しました。そこで、皆様に、私が知る限りの富山高専とその周辺の変化についてご案内します。

学生の食事

15年ほど前…主流は弁当、次にカップラーメン、パン
現在…主流は、カップラーメン、次にパン、学食、上級生は外食(高専から車で5分位のところに、ココス、吉野屋の牛丼など食事処が多数有)、コンビニ弁当

生息動植物

最近見かけなくなった動植物…ひばり、へび(寮祭で食べすぎた?)、野ウサギ(農を仕掛けた教官がいたため?)、ねじり草、きのご類(秋の楽しみが減りました)
増えた動植物…女郎蜘蛛、カラス、グラウンドの雑草(…)
学内の常連さん…キジ、蝉

学生の服装

学生もオシャレになりました。
最近見なくなりました…学ラン+ジャージ、作業服、白衣+ジャージ(その下のパジャマ)、作業服での市内徘徊(作業服はパチンコ用??)
最近の傾向…東京の渋谷と同じです。

学生の趣味

以前…パチンコ、オートバイ、音楽、部活
現在… ????

アルバイト

以前…製造業、土方、接客業
現在…接客業(コンビニ、スタンド、レストランなど)

その他

無くなったもの、絶滅の危機があるもの…中林商店(チュウリン;清住町バス停前、寮生御用達)、硬派(昔は、硬派でいるしかなかったかも?)、運動会、マラソン大会、クラブ対抗駅伝、遠足、国泰寺の座禅、高専の周辺の水田(高専と富山南高校の水田は住宅になりました)

富山工業高等専門学校のあゆみ

- 昭和38年 3月31日 富山工業高等専門学校の昭和39年度開校決定
- 昭和39年 2月22日 昭和39年度入学候補者選抜試験実行
- 昭和39年 3月30日 第1期工事竣工
- 昭和39年 4月 1日 富山工業高等専門学校設置。初代校長に富山大学工学部長・野路末吉が任命
- 昭和39年 4月18日 開校式および第1回入学式挙(入学者135名)
- 昭和40年 3月26日 第2期工事竣工(校舎増築、食堂増築等)
- 昭和41年 3月28日 第3期工事竣工(校舎増築、実習工場、体育館)
- 昭和43年 2月16日 武道場竣工
- 昭和44年 3月21日 第1回卒業証書授与式挙
- 昭和44年 4月 1日 金属工学科設置
- 昭和45年 3月23日 金属工学科棟竣工
- 昭和45年12月10日 体育トレーニングセンター竣工
- 昭和47年11月21日 図書館竣工
- 昭和49年 2月11日 校歌制定
- 昭和49年10月 4日 開校10周年記念式典挙

- 昭和50年 3月17日 電子計算機室竣工
- 昭和53年 3月27日 金属工学科実習工場竣工
- 昭和54年 3月30日 屋外水泳プール竣工
- 昭和55年 3月15日 第2体育館竣工
- 昭和56年 3月30日 弓道場竣工
- 昭和57年 3月15日 合宿研修施設竣工
- 昭和58年 3月22日 福利施設竣工
- 昭和59年10月25日 開校20周年記念式典挙
- 昭和62年 3月27日 工業材料教育研究センター竣工
- 平成元年 4月 1日 工業化学科を物質工学科に改組
- 平成 2年 2月28日 創立25周年記念柔道場竣工
- 平成 4年 3月31日 生物工学実験棟竣工
- 平成 5年 4月 1日 専攻科設置
- 平成 4年 4月21日 第1回専攻科入学式挙
- 平成 6年10月26日 創立30周年記念式典挙
- 平成 7年 3月17日 第27回卒業証書授与式および第1回専攻科修了証書授与式挙
- 平成 7年 4月 1日 金属工学科を環境材料工学科に改組
- 平成11年 3月18日 第31回卒業証書授与式および第5回専攻科修了証書授与式挙
- 平成11年 4月 8日 第36回入学式および第7回専攻科入学式挙

近畿・東海・北陸・信越地区
高等専門学校弓道大会

団体の部 準優勝 富山高専 A
女子団体の部 優勝
個人の部 3位 永井 瑞穂

読売杯北信越学生柔道大会

2部 優勝

第6回全国高等専門学校将棋大会

個人の部 準々決勝敗退 山中桂一郎

第54回国民体育大会夏季大会

ボウリング(少年女子) 出場 山田亜希子



第34回北陸地区高専体育大会 主管 富山高専
6月19日～7月4日

区 分	順 位				
	富山高専	石川高専	福井高専	富山商船	金沢高専
陸上競技	2	3		1	
男子バレーボール	2	3	1		
女子バレーボール		2	3	1	
男子バスケット		2		3	1
女子バスケット	3	1		2	不参加
男子テニス		3	1	2	
女子テニス	3		1	2	不参加
野 球	3	1	2		
サ ッ カ ー	1		2	3	
男子卓球	1	3	2		
男子バドミントン	1	3			2
女子バドミントン		2	3	1	不参加
水 泳		1		3	2
男子剣道		3		2	1
男子柔道	1	3		2	不参加
総合順位	3	2	4	1	5

第34回全国高専体育大会結果

陸上部(個人戦)

110mハードル 6位 高島 悠
走高跳 5位 安田 吉宏
走幅跳 15位 得能 彰

男子卓球部

団 体 3位
シングルス 1回戦敗退 林 正人

男子バドミントン部

団 体 準々決勝敗退
個人(シングルス) 準々決勝敗退 松沢 知紀
個人(ダブルス) 1回戦敗退 松沢 知紀
沢井 陽介

女子バドミントン部

個人(ダブルス) 準々決勝敗退 村上 悌子
中尾 和美

水泳部

200m背泳 6位 山本 奨悟

男子柔道部

団 体 予選リーグ敗退
個人(60kg級) 1回戦敗退 中谷 準平
個人(73kg級) 準々決勝敗退 西村 光晴
個人(90kg級) 準々決勝敗退 西野 泰広

女子柔道部

個人(52kg級) 2位 石黒亜矢子
個人(52kg級) 3位 太田 香織
個人(52kg超級) 優勝 山本 綾香
個人(52kg超級) 準々決勝敗退 城野真奈美
個人(52kg超級) 1回戦敗退 杉政 友理



4 K 下田陽一郎君

オープン競技順位

区 分	順 位				
	富山高専	石川高専	福井高専	富山商船	金沢高専
ソフトテニス	不参加	1	3	不参加	2
女子剣道	4	1	不参加	3	2
ラグビー	2	不参加	3	1	不参加
ハンドボール	3	1	2	不参加	不参加

平成 11 年度事業

- 6 月 定時理事会
- 11 月 30 周年同窓会総会 (名鉄トヤマホテル)
 - ・志峰祭補助
 - ・クラブ活動助成
 - ・30 周年記念会報発行
 - ・卒業祝賀会 (教育後援会とともに主催)
 - ・新理事へ活動助成金進呈 (平成 10 年度から)
 - ・平成 12 年度に同窓会名簿発行予定

第 11 回電友会の開催について

開催日：2000 年 2 月 5 日(土)
 時間場所等詳細は現在検討中です。
 連絡担当者：電気工学科第 12 期卒業 大沢 潤 一
 連絡先：(自宅)住所：
 東京都練馬区石神井町 3-25-21-413
 電話/FAX：03-3997-3509
 E-mail:ju-oosawa@kdd.co.jp

全国高校生クイズ選手権で健闘！



9 月 3 日放映の日本テレビ「全国高校生クイズ選手権」に 3 年電気工学科の前田賢一君・嶋内康雄君・升谷直人君の 3 名が富山県代表で出場し、準々決勝に進出しました。
 「運と勢いです！」と語る 3 名は接戦を勝ち抜き、その素朴さとさえたダジャレでブラウン管を通して富山高専をさわやかに印象づけました。

君の人生は輝いているか

11月5日(金) (午後2時~4時)

オーバードホール
(富山市芸術文化ホール)

入場無料

ジェームス木村氏

富山高専
[講演会]

編集 後記

同窓会も設立 30 周年記念を迎え、会員は、4 千 5 百名を越えようとしています。20 代から 50 代の幅広い会員の皆さんに母校について関心を持っていただけるよう編集しました。
 原稿をお寄せ頂きました皆様はこの場を借りて心より御礼申し上げます。
 また、ご意見ご感想などお寄せいただければ幸いです。
 C15 川越 (旧姓 高島) 記

- ◎ 富山高専ホームページアドレス
<http://www.toyama-nct.ac.jp>
- ◎ 富山高専同窓会ホームページアドレス
<http://www.toyama-nct.ac.jp/OB-OG/>
- ◎ 「ヒューマンネットワーク高専」ホームページアドレス
<http://www.hnk.or.jp/>
E-mail: miyahnk@cocoa.ocn.ne.jp/